

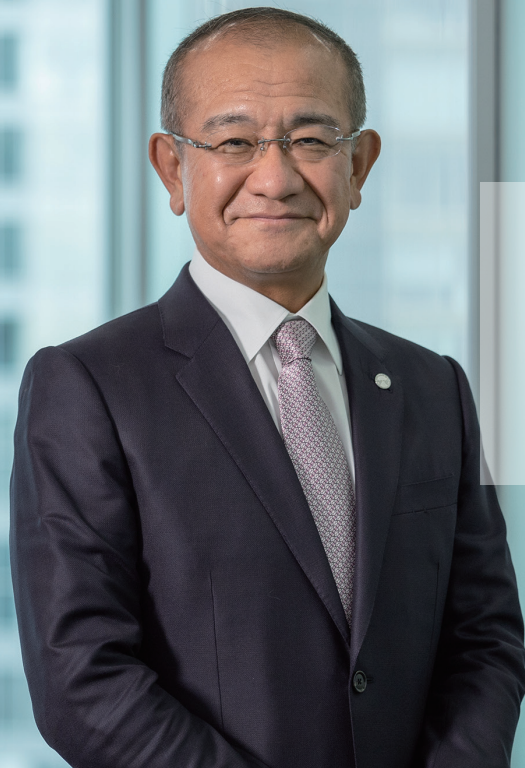
WIN PARTNERS  
WIN A BETTER QUALITY OF LIFE

# PARTNERS Report

ウイン・パートナーズ 株式会社

第10期第2四半期 株主通信 Vol.14

2022年4月1日～2022年9月30日



M&Aにより業容を拡大。  
WIN Heart Gateの建物も  
完成し物流改革を進めます。

代表取締役社長 秋沢英海

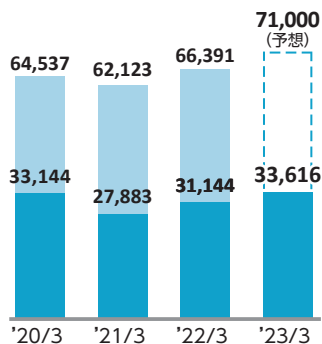
## 連結財務ハイライト

■ … 第2四半期(累計) ■ … 通期

### 売上高

(単位：百万円)

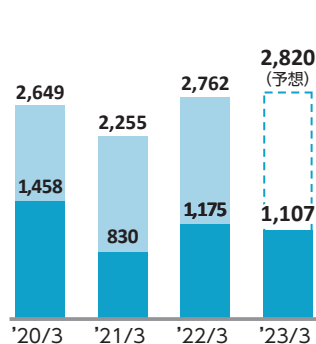
**33,616**百万円 (前年同期比+7.9%)



### 営業利益

(単位：百万円)

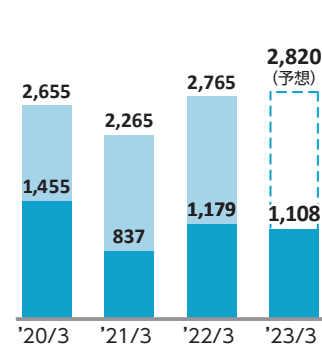
**1,107**百万円 (前年同期比△5.8%)



### 経常利益

(単位：百万円)

**1,108**百万円 (前年同期比△5.9%)



## Q-1 当上期の経営成績と通期見通しについてご解説ください。

医療業界では、夏場の新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響で減少した患者数や手術件数が戻りつつあります。当社グループでも主要分野の症例数は回復してきています。一方で2年に一度の診療報酬改定が4月に実施され、当社グループの主力商品である薬剤溶出ステントやPTCAバルーンカテーテル、ペースメーカーなどの販売価格が低下しました。

こうした状況を受け、当上期の売上高は、前年同期比7.9%増加、営業利益は同5.8%減少とな

りました。新型コロナと保険償還価格改定の影響を営業力強化による販売数量の増加と大型医療機器の売上によりカバーする形で増収となった一方、利益面では、売上総利益率の低下に加えて人件費や経費が増加したことから、期初の計画には届きませんでした。

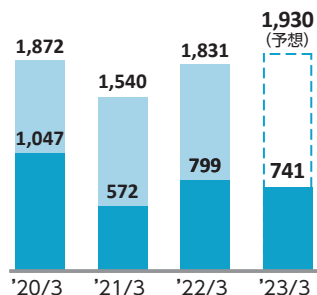
分類別売上高では、新型コロナの影響が残った虚血性心疾患関連（PCI）で前年同期比減収となったものの、それ以外の全分野で増収となりました。とくに注力している心臓律動管理関連（CRS）

### 親会社株主に帰属する

#### 当期純利益

(単位：百万円)

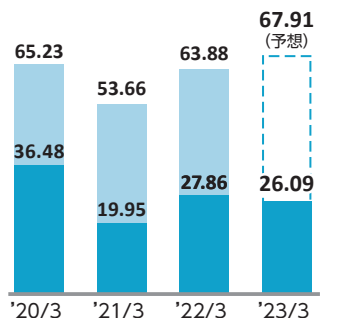
**741**百万円 (前年同期比△7.3%)



#### 1株当たり当期純利益

(単位：円)

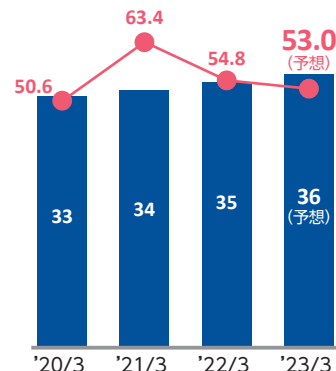
**26.09**円 (前年同期比△6.4%)



### 1株当たり配当金

■ 普通配当 (円)

● 配当性向 (%)



では、高度な製品知識を持つ営業員を戦略的に増やしてきたことが功を奏し、着実に売上を伸ばし、売上構成比で最大となりました。また医療機器関連は大型案件の成約などを受けて大幅な増収となりました。

今後も、新型コロナの影響を注視しつつ、顧客の成長のための提案・支援を続け営業力を強化していきます。

現時点で通期の利益については、期初計画通りの増益を見込んでいます。

## Q-2 中長期の成長戦略についてお聞かせください。



当社グループでは、身体への負担が少ない「低侵襲医療」へ特化し、顧客病院の課題解決と成長をサポートすることが何よりも大切であると考えています。単に医療機器を納入するだけでなく、綿密な市場調査に基づく集患策や、オリジナルの医療材料管理システム（信蔵君）の導入による業務効率の改善などを提案し、顧客から高い評価を得てきました。今後もこの考えを徹底し、医療制度改革がもたらす変化の波を顧客とともに乗り越えていく考えです。

成長分野として注目しているのが、ペースメーカーなど不整脈を治療する医療機器を扱う心臓律動管理関連（CRS）です。医療技術や医療機器の進歩などに伴って、この分野の症例数は急速に拡大

しており、当社ではこれを見越し、早い段階から「CDR」\*の認定取得者を多数育成してきました。今後もこの分野には経営資源を積極的に投入し、さらなる強化を進めていきます。

営業エリアの拡大に向けたM&Aにも継続的に取り組んでいます。M&Aに関しては、当社グループの理念を共有できることが大切と考え慎重に調査・検討を行ってきたため、ここ数年は新たな動きはありませんでしたが、8月に岩手県を地盤とする株式会社トーセイメディカルがグループに加わりました。これによって、東北6県のうち5県に8つの拠点を置くことになり、今後の事業規模の効率的な拡大につながると期待しています。

物流改革については、今年11月完成の新たな物流拠点「WIN Heart Gate」が、大きな役割を担います。当社グループが首都圏で展開する9つの営業所・出張所をカバーし、RFID\*の活用や、新たに開発する物販管理システムなどによって、物流業務を大幅に効率化できると期待しています。年明け以降トライアル運用を開始し、2024年2月頃の本格稼働開始を目指しています。先進的な技術を多く取り入れる大掛かりな物流改革であるため、取引先の協力も得ながら慎重にテストを重ねています。



また、サステナビリティへの取り組みとしては、これまでに女性活躍推進サポートチーム「KIRARIS」の設置や、サステナビリティ基本方針の制定（P9参照）とサステナビリティ委員会の設置などを実行してきました。今年4月には東証プライム市場へ移行したことにより、こうした取り組みを更に前進させなければという思いを新たに、マテリアリティの選定に加え、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明・TCFDコンソーシアム加入を決めました。今後、TCFD提言に沿った開示を進めてまいります。サステナビリティへの取り組みについては、ホームページもご参照ください。

※CDR：ペースメーカー/ICD関連情報担当者認定制度

※RFID：無線通信を用いてICタグを取り付けた商品等を管理するシステム

## Q-3 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当期末の配当金につきましては当初の計画通り、前期比1円増配の1株当たり36円とさせていただく見通しです。

おかげさまで当社は2023年4月に、設立10周年を迎えます。これまでの10年間を振り返って私が痛感するのは、当社グループが、非常に筋肉質になったということです。この10年の間には、主取引先の変更や、コロナ禍による売上の急減など、苦境に立たされる場面も多くありましたが、こうした激動を耐え抜き、ピーク時と同水準の売上高を取り戻すことができました。環境の変化に適応しようと懸命に努力する中で、無駄な贅肉が削ぎ落とされ、

多少の外的要因には左右されない強靱な経営体質を獲得できたと自負しています。これからの10年で目指すべき方向性については、現在社内で討議していますが、真摯に事業活動を行い、医療を通じて社会に貢献する企業であり続けるという軸は変わりません。

株主の皆様には今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



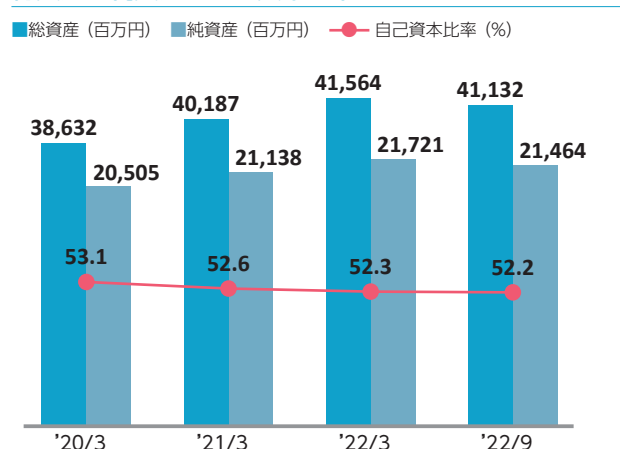
## 連結貸借対照表(要旨)

	前期末 2022年3月31日	当第2四半期末 2022年9月30日
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>34,745</b>	<b>33,128</b>
現金及び預金	15,572	14,841
受取手形及び売掛金	16,361	14,402
商品	2,066	2,776
その他	745	1,107
<b>固定資産</b>	<b>6,819</b>	<b>8,004</b>
有形固定資産	5,748	6,690
無形固定資産	156	323
投資その他の資産	913	989
<b>資産合計</b>	<b>41,564</b>	<b>41,132</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>18,698</b>	<b>18,480</b>
支払手形及び買掛金	16,975	16,985
その他	1,722	1,495
<b>固定負債</b>	<b>1,144</b>	<b>1,187</b>
<b>負債合計</b>	<b>19,843</b>	<b>19,668</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>21,674</b>	<b>21,421</b>
資本金	550	550
資本剰余金	2,272	2,272
利益剰余金	19,688	19,434
自己株式	△836	△836
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>47</b>	<b>43</b>
<b>純資産合計</b>	<b>21,721</b>	<b>21,464</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>41,564</b>	<b>41,132</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

	前第2四半期 2021年4月1日～ 2021年9月30日	当第2四半期 2022年4月1日～ 2022年9月30日
<b>営業活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>828</b>	<b>1,055</b>
<b>投資活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△156</b>	<b>△654</b>
<b>財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△976</b>	<b>△1,162</b>
<b>現金及び 現金同等物の期首残高</b>	<b>12,122</b>	<b>10,572</b>
<b>現金及び現金同等物の 四半期末残高</b>	<b>11,818</b>	<b>9,811</b>

## 総資産／純資産／自己資本比率



## Point

## 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が1,087百万円、売上債権の減少が2,582百万円あった一方、仕入債務の減少が662百万円、法人税等の支払が665百万円あったこと等により1,055百万円の収入となりました。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出が601百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が505百万円あったこと等により654百万円の支出となりました。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

前期の配当金の支払が994百万円あったことにより1,162百万円の支出となりました。



## 連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

	前第2四半期 2021年4月1日～ 2021年9月30日	当第2四半期 2022年4月1日～ 2022年9月30日
売上高	31,144	33,616
売上原価	27,251	29,589
売上総利益	3,892	4,027
販売費及び一般管理費	2,716	2,920
営業利益	1,175	1,107
営業外損益	3	1
経常利益	1,179	1,108
特別損益	0	△21
税金等調整前四半期純利益	1,179	1,087
法人税等	379	345
四半期純利益	799	741
親会社株主に帰属する 四半期純利益	799	741

連結包括利益計算書  
(要旨)

(単位：百万円)

	前第2四半期 2021年4月1日～ 2021年9月30日	当第2四半期 2022年4月1日～ 2022年9月30日
四半期純利益	799	741
その他の包括利益	9	△3
四半期包括利益	809	737

## Point

心臓律動管理関連(CRS)及び医療機器関連の伸長、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急性の低い待機的手術の延期があったこと等により、増収減益となりました。

## 主要分類別売上概況

## ● 心臓律動管理関連 (CRS)

既存顧客の深耕と新規顧客の獲得に注力するため、人員の増強を図り営業活動を強化しました。その結果、植込型除細動器(ICD)、両室ペーシング機能付き植込型除細動器(CRTD)の販売数量が伸長したこと等により、心臓律動管理関連の売上高は8,958百万円となりました。

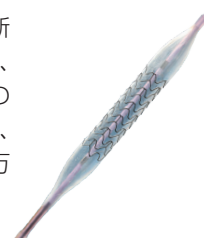


取扱製品例：  
植込型除細動器

前年同期比 **+7.5%**

## ● 虚血性心疾患関連 (PCI)

顧客の課題解決に向けた付加価値の高い提案を行うことで、既存顧客の深耕と新規顧客の獲得に努めました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から手術件数が減少したこと等により、虚血性心疾患関連の売上高は7,949百万円となりました。



取扱製品例：  
薬剤溶出型ステント  
(DES)

前年同期比 **▲3.4%**



13.1%

その他

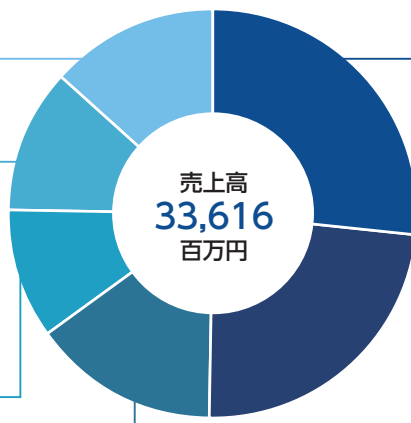
11.5%

医療機器関連

10.2%

末梢血管疾患関連 (PPI)  
及び脳外科関連

分類別売上高構成比



26.7%

心臓律動管理関連 (CRS)

23.6%

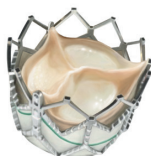
虚血性心疾患関連 (PCI)

14.9%

心臓血管外科関連 (CVS)

### ● 心臓血管外科関連 (CVS)

経カテーテル的大動脈弁留置術 (TAVI) やステントグラフト関連商品の販売数量が伸長したこと等により、心臓血管外科関連の売上高は5,010百万円となりました。



取扱製品例：  
TAVI用生体弁

前年同期比 **+8.0%**

### ● 医療機器関連

医療施設の新築・増改築及び医療機器の更新情報収集を早期に行い、地域の市場動向に沿った設備投資の提案を行ったこと等により、医療機器関連の売上高は3,859百万円となりました。



取扱製品例：  
移動式X線撮影装置

前年同期比 **+36.1%**

### ● 末梢血管疾患関連 (PPI) 及び脳外科関連

経皮的シャント拡張術で使用されるPTAバルーンカテーテルや脳外科関連商品の販売数量が伸長したこと等により、末梢血管疾患関連及び脳外科関連の売上高は3,436百万円となりました。



取扱製品例：  
PTA/バルーンカテーテル

前年同期比 **+8.6%**

### ● その他

循環器領域以外の診療科に対する営業活動を強化し、顧客医療機関における当社グループの取扱商品の拡大を図りました。この結果、消化器関連や糖尿病関連の販売数量が伸長したこと等により、その他の売上高は4,401百万円となりました。



取扱製品例：  
インスリンポンプ

前年同期比 **+11.9%**

特集

# サステナビリティへの取り組み

このたび当社ではサステナビリティ基本方針のもとサステナビリティ委員会によって下記マテリアリティ(重要項目)を特定しました。またTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に沿った情報開示も行っています。当社はこれまで社会の重要なインフラの一つである医療に関わる企業として、医療機器を安全・確実にお届けするのはもちろんのこと、医療業界の様々な課題解決に取り組み、医療提供体制の維持・発展に貢献するべく努めてまいりました。今後もサステナブルな社会と安全でより良い医療の実現に向けて、一層努力してまいります。

## ● ウィン・パートナーズ サステナビリティ基本方針

当社は「すべての人にベター・クオリティ・オブ・ライフを提供し、豊かな社会の実現に貢献します」という企業理念のもと、すべてのステークホルダーに配慮し、社会が直面する課題解決に努め、サステナブルな社会の実現に貢献します。

## ● サステナビリティに取り組むための組織と体制図



▶ より詳しくお知りになりたい方は、当社HPをご覧ください  
<http://www.win-partners.co.jp/company/sustainability/>



マテリアリティ	関連するSDGs
<b>医療提供体制</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サステナブルな医療システム構築支援</li> <li>● 低侵襲医療の普及とアクセス向上</li> <li>● 医療分野におけるDX推進</li> <li>● 新規医療分野の推進</li> </ul>	
<b>サプライチェーン</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サステナブルな商品供給体制</li> <li>● 強固なサプライチェーン構築</li> </ul>	
<b>人材活躍</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サステナブルな企業活動を支える人材育成</li> <li>● 多様な人材が活躍できるダイバーシティの推進</li> <li>● 人権の尊重</li> </ul>	
<b>環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球環境への貢献</li> <li>● 脱炭素社会の実現</li> </ul>	
<b>企業基盤</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中長期的な事業の承継・継続</li> <li>● 情報セキュリティ</li> <li>● コンプライアンス遵守の体制</li> <li>● 災害に対するレジリエンスの確保</li> </ul>	

## 会社概要

(2022年9月30日現在)

社名	ウイン・パートナーズ株式会社
英文社名	WIN-Partners Co., Ltd.
事業内容	医療機器販売等（連結ベース）
本店所在地	東京都中央区京橋二丁目2番1号 京橋エドグラン21階
グループ会社	株式会社ウイン・インターナショナル テスコ株式会社 株式会社エムシーアイ 株式会社トーセイメディカル
設立年月日	2013年4月1日
資本金	5億5千万円
従業員数	605名（連結）

## 役員

(2022年9月30日現在)

代表取締役社長	秋沢 英海
取締役	三田上 浩美
取締役	秋田 裕二
取締役	松本 啓二
社外取締役	間島 進吾
社外取締役	井出 健治郎
取締役	中田 陽一*
社外取締役	神田 安積*
社外取締役	菊地 康夫*

(注) ※は、監査等委員

## 株式の状況

(2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	100,000,000 株
発行済株式の総数	30,503,310 株
株主数	8,748 名

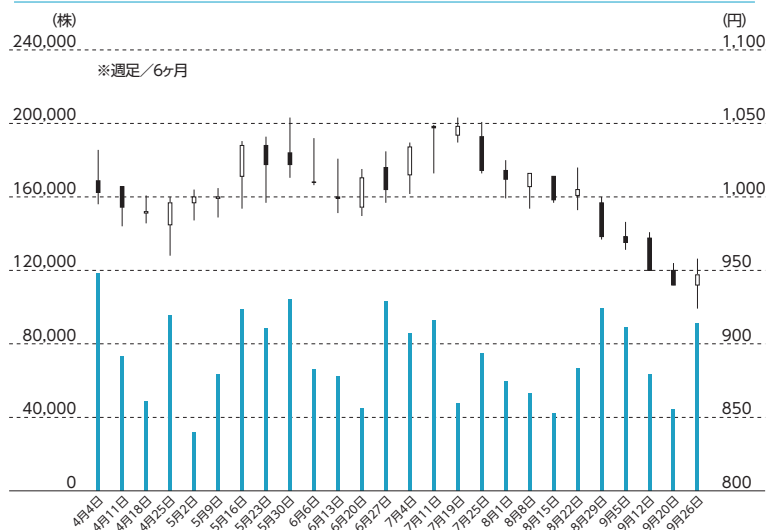
## 大株主

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
有限会社オフィスA	5,500,000	19.35
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	2,350,818	8.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,013,100	7.08
株式会社キエマ企画	1,891,000	6.65
秋田裕二	1,714,990	6.03

(注) 持株比率は自己株式2,083,573株を控除して計算しております。

## 株価及び出来高の推移

(期間：2022年4月～9月)



## IRカレンダー



## 株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで	株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年6月	連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	期末配当金 3月31日		
公告方法	電子公告 <a href="http://www.win-partners.co.jp/koukoku/">http://www.win-partners.co.jp/koukoku/</a> やむを得ない事由により電子公告による ことができない場合は、日本経済新聞に 掲載いたします。		

※ 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則として口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。



WIN A BETTER QUALITY OF LIFE

WIN PARTNERS

ウイン・パートナーズ 株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1 京橋エドグラン21階  
TEL: 03-3548-0790

[www.win-partners.co.jp](http://www.win-partners.co.jp)



WINはQOL推進企業です